

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名 ※	社会的養護Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜日・1限
キャンパス ※	千葉明德短期大学	教室 ※	222
学修分野			
授業目的 ※	保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<p>1.社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。</p> <p>2.児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。</p> <p>3.施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。</p> <p>4.社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。</p>		
授業内容	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。</p> <p>授業の形式は、講義、演習、ディスカッション等で実施をする。</p>		
授業形態 ※	講義		
評価方法 ※	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への出席 総合点の45%</p> <p>2 授業毎の感想レポート45%</p> <p>3 授業への積極的参加度 日常の受講態度 10%</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項			

授業シラバス	<p><u>第1回：オリエンテーション</u> <u>現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷①社会的養護の理念と概念</u></p> <p><u>第2回：現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷②社会的養護の歴史的変遷</u></p> <p><u>第3回：社会的養護と児童家庭福祉①児童家庭福祉と社会的養護の関係性</u></p> <p><u>第4回：社会的養護と児童家庭福祉②児童の権利擁護と社会的養護</u></p> <p><u>第5回：社会的養護の制度と実施体系①社会的養護の制度と法体系</u></p> <p><u>第6回：社会的養護の制度と実施体系②社会的養護の仕組みと実施体制</u></p> <p><u>第7回：社会的養護の制度と実施体系③家庭養護と施設養護</u></p> <p><u>第8回：社会的養護の制度と実施体系④社会的養護の専門職</u></p> <p><u>第9回：施設養護の実際①施設養護の基本原則 施設養護の実際/養護系施設</u></p> <p><u>第10回：施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設</u></p> <p><u>第11回：施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点</u></p> <p><u>第12回：社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制</u></p> <p><u>第13回：社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性</u></p> <p><u>第14回：社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の課題</u></p> <p><u>第15回：保育士として社会的養護にどのように関わりたいのかを考える</u></p>
--------	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名※	リトミック	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜 1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日通知
学修分野			
授業目的※	保育現場においてリトミックの手法を用いた活動をするための、知識と技術の習得を目指す。		
到達目標	保育者を志す者としての自覚を持ち、実際に幼児におけるリトミックを体験しその内容の分析を行う。打楽器やボールなど様々な教具を使い、子どもが音楽遊びを楽しめるような援助ができる力を養う。また、音楽の身体表現などのグループワークを通して、多様な意見を統合してアイデアを生み出せる力を養う。		
授業内容	講義と演習の組み合わせ形式で行う。演習では、主に3～5歳児を対象としたリトミックレッスンを体験し、ロールプレイングやディスカッション、振り返りシートの記入を取り入れる。また、指導案を作成をすることにより指導ポイントの理解を深め、実践演習や音楽の身体表現などのグループワークを通して多様な音楽表現方法を学ぶ。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	授業態度、課題提出を通して総合的に判断する。		
評価基準	授業への取り組みの積極性30%、提出課題の内容及び試験70%		
テキスト	板野平監修、神原雅之・野上俊之編著「ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー」チャイルド社		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（音楽）	単位数 ※	1
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜日・2限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	231
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	<p>①保育における音環境について考察し、豊かな「音環境」について説明できる。</p> <p>②いろいろな楽器に触れ、それらの基礎的な知識、簡単な技術が身につく。</p> <p>③いろいろな楽器や素材から、「音あそび」への展開を考えることができる。</p>		
授業内容	<p>・実習などを振り返りながら、それぞれが知っている保育の「音環境」について話し合い、子どもにとってどんな影響があるのか？豊かな「音環境」とは？を考えていく。いろいろな楽器の特性や音楽づくりの基礎的な知識を知り、自ら音遊びを経験することで、保育における音楽的活動の展開の仕方を学ぶ。</p>		
授業形態※	演習		
評価方法※	<p>・授業での取り組み（実技、発言、発表）70%</p> <p>・小レポート 30%</p>		
評価基準			
テキスト	適宜資料を配布する		
注意事項			
授業シラバス	<p>第1回 オリエンテーション：保育における音環境について考える</p> <p>第2回 いろいろな楽器を知る</p> <p>第3回 楽器遊び①</p> <p>第4回 楽器遊び②</p> <p>第5回 手作り楽器①</p> <p>第6回 手作り楽器②</p> <p>第7回 合奏①</p> <p>第8回 合奏②</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（運動）	単位数 ※	1
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜日・2限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	211
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのモノや人を通して経験する身体感覚や多様な動きを伴う遊びについて理解し、説明することができる。 ・多様な動きにつながる教材を探究し、展開することができる。 ・子どもの動きから学び、そこから遊びの展開について考えることができる。 		
授業内容	これまでの実習をふりかえりながら、身のまわりのモノや人を通して経験する繊細な身体感覚や多様な動きにつながる遊びや環境を考える。そのために、からだを捉え直し、身体感覚や動きをひきだす教材や環境、保育者の援助について、実践的に考えていく。		
授業形態※	演習		
評価方法※	授業での取り組み（グループ活動や実技での積極的な取り組み）－50% 実技の成果－25% 授業毎のコメントペーパー －25 %		
評価基準			
テキスト	適宜資料を配布する。		
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション：身体の再発見、多様な動きとは 第2回 身のまわりのモノや人と関わる際の身体感覚を見つめ直す 第3回 これまでの実習で実践してきた遊びから、身体感覚や多様な動きを考える 第4回 伝承遊びの技と動き 第5回 身のまわりにある素材と全身運動につながる遊び 第6回 即興的な動きのやりとり、学外学習に向けた準備 第7回 学外学習：子どもと遊ぶ、動きと環境について考える 第8回 ふりかえり、まとめ		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	歴史学	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜 2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	本授業のねらいは、「国際的な視野で多様な共生社会の課題に取り組む能力(DP.CP2)」を身につけるため、「歴史とは何か」「歴史を学ぶ意義」を問いながら、今後新しく展開される近現代史の論点を知ることにあります。		
到達目標	到達目標は、歴史の連続性や歴史の同時代性の視点から現在の日本、及び国際情勢を理解し、課題を発見し、自分自身の言葉で説明できることにあります。		
授業内容 授業形態 ※	リアクションペーパー、数回の小テストをおこないます。また、学期末には授業の理解を確認するテストを行います。リアクションペーパーや小テストは、コメントをつけて、返却します。 対面形式		
評価方法 ※	①授業への取り組み・小テスト、②学期末確認テスト		
評価基準	①授業への取り組み・小テスト(40%) ②学期末確認テスト(60%)		
テキスト	本授業の内容は、多分野にわたるため、教科書は指定しません。 授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	健康とスポーツ	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	木曜日4限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	<p>生体の持つ特性の一つに、生体適応が挙げられます。それは、運動刺激が適切であれば生体機能は向上し、もし運動刺激が少なければ機能低下が生じ、また運動刺激が強すぎると障害が引き起こされるという現象です。体力と健康の密接な関係から運動ならびにスポーツの重要度は増しているものの、トレーニング過多によりスポーツ障害が発生します。したがって、スポーツにおいて、個々人に対する適切なトレーニング刺激が必要とされます。この「健康とスポーツ」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりをめざす運動や競技力向上をめざすスポーツにおいて、安全な実施の基盤となるスポーツ医科学の基礎と応用について学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>健康ならびに運動・スポーツに携わる専門家に必要とされる、運動生理学ならびにスポーツ科学に基づく健康とスポーツについて理解し説明できる。</p>		
授業内容	<p>「健康とスポーツ」では、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえ、日常生活において自発的かつ積極的な運動・スポーツ実践に発展させていくことを目標とする実用的な内容を目指します。</p> <p>この授業では、グループでのディスカッションやグループごとの発表なども行います。</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験60%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点40%。		
評価基準			
テキスト	原則としてプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項